

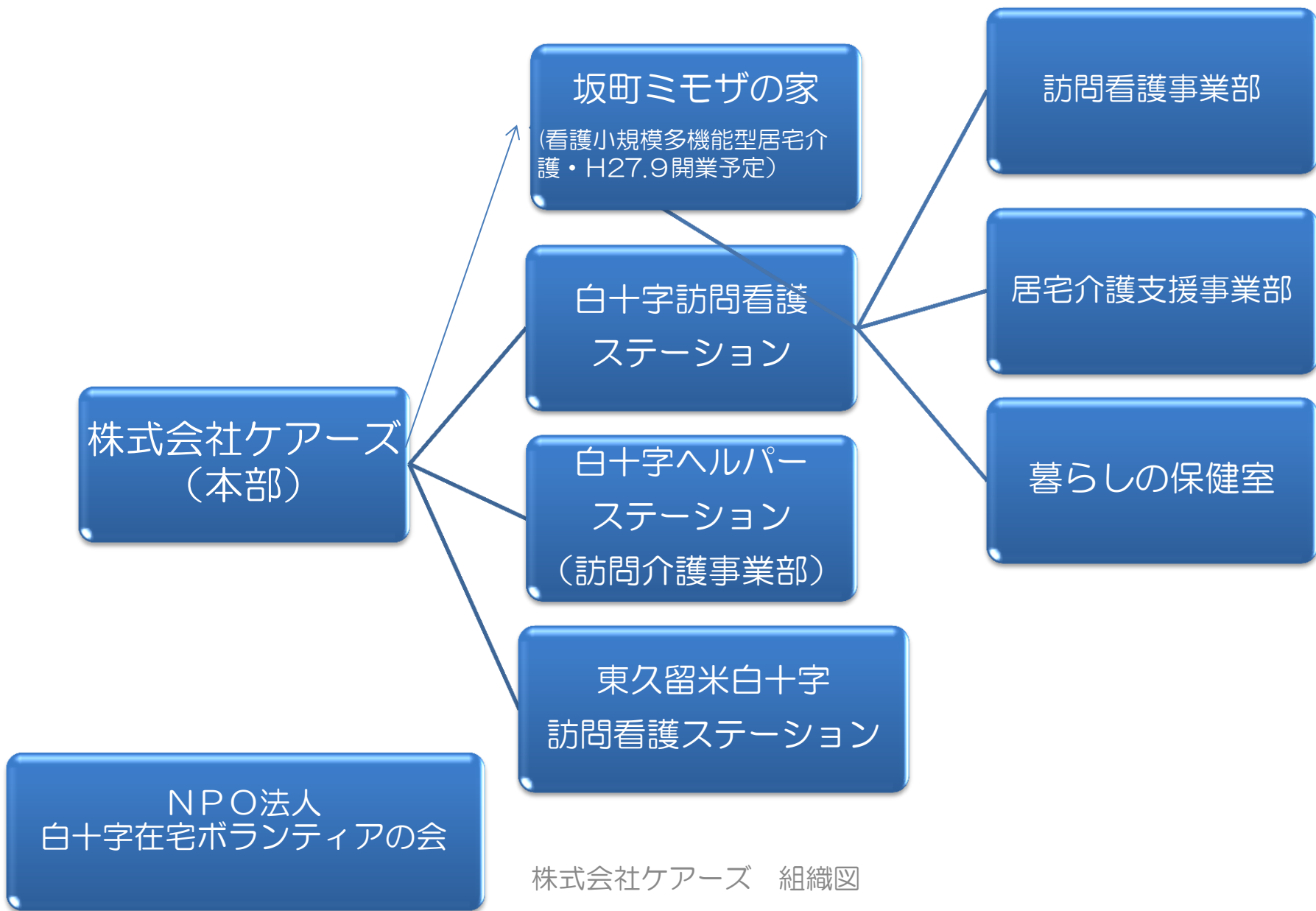
福祉先進都市・東京の実現に向けた地域包括ケア
システムの在り方検討会議 第2回
平成27年7月30日(木)

誰もが地域で安心して暮らすことのできる東京
暮らしの保健室から見たこれからの課題

(株)ケアーズ
白十字訪問看護ステーション 統括所長
暮らしの保健室 室長
秋山 正子

白十字訪問看護ステーション開設からの経緯

- 1980年に市ヶ谷で佐藤智医師が始められたライフケアシステムでの「在宅ケア」の精神を受け継ぎ、訪問看護ステーション制度発足の1992年の12月に、医療法人春峰会立「白十字訪問看護ステーション」として活動開始しました。
- 2001年医療法人解散に伴い、有限会社設立。同じ市ヶ谷の地で、地域の皆様の信頼に応えるべく、活動を続けてきています。(2006年新会社法にて株式会社に商号変更)
- 2007年8月東久留米にも東久留米白十字訪問看護ステーションを開設しました。
- 利用者と家族と医療者が、共有する場で作り上げるのが「在宅ケア」であり、訪問看護師は患者(利用者)サイドに立った調整役でもあるというのが当初からの考え方です。
- 2011年7月 戸山ハイツに「暮らしの保健室」開設
- 2015年9月 坂町ミモザの家(看護小規模多機能)開設予定



株式会社ケアーズ 組織図

白十字訪問看護ステーション(市ヶ谷) の概要 (2015年4月現在)

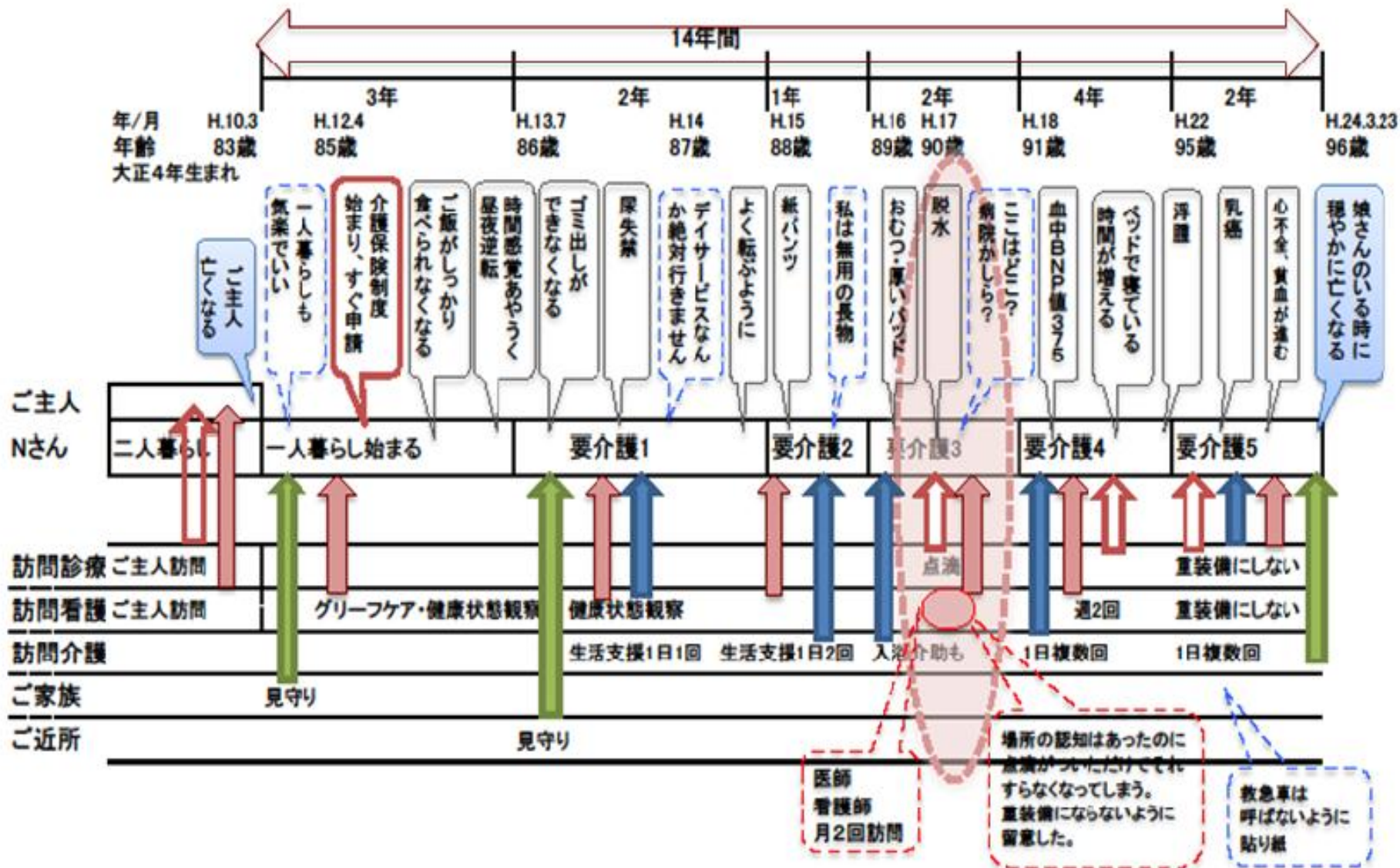
- 1ヶ月平均の利用者数 180~190名 (訪問看護)
60~65名 (居宅介護支援)
- 1ヶ月平均の延べ訪問件数 950~1100件
- スタッフ数
 - 訪問看護師 20名 (うち暮らしの保健室 専従3名)
常勤 11名 非常勤 9名
 - PT (理学療法士) 非常勤1名
 - OT (作業療法士) 非常勤1名
 - 社会福祉士 (介護支援専門員) 常勤2名
- 受け持ち看護師を中心に2~3人でチームを組んで、
訪問看護を提供する。
- 平成26年 (平成26年1月~12月) 在宅看取り人数 30名
- 機能強化型訪問看護管理療養費 (I) を算定
- 東京都福祉保健局「東京都訪問看護教育ステーション事業」指定

訪問看護の実践の中で考える
生活を支える視点での看護の介入
殆ど在宅 たま～に入院
を支えられる訪問看護の役割

医療・介護・予防の一体的提供が
実現するには？

重装備化しない高齢者の
看取り方の普及を、生活の場で！

重裝備にせずに終末期を支援



地域包括ケアシステムの構成要素の具体的な姿

本人・家族の選択と心構え



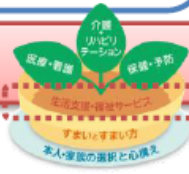
「養生」のための動機づけ支援や知識の普及

- 地域包括ケアシステムでは、支援・サービスを提供するだけでなく、本人も、自発的に健康を管理する態度をもって健康な生活を送る「養生(ようじょう)」が求められる。
- 「養生」に努めるには、受動的でなく能動的に学び、多様なニーズや関心をもつ人達が情報やスキルを共有、健康管理や必要な支援・サービスの選択ができるようになるプログラムの提供、教育人材の確保・育成が必要。

自己決定に対する支援

- 世帯構成の変化、住み替え、ケア方針の決定といった様々な場面での意思決定に対する支援として、**分かりやすい情報の提示、専門職の助言、支援・サービスの利用による効果の成功体験の蓄積・伝達**が必要。
- 長年の信頼関係をもつ主治医や以前から関与しているケアマネジャー等の専門職が助言してこそ意味がある。特にターミナル期では、望まない治療や救急搬送が行われないう十分なコミュニケーションが求められる。

生活支援



個人に対する生活支援サービスの提供

- 生活支援は、地域内で民間事業者によって提供されているサービスを購入する方法(自助)、地域の互助によって提供される支援を活用する方法(互助)が想定される。**地域単位で最適な提供方法の検討が必要**。

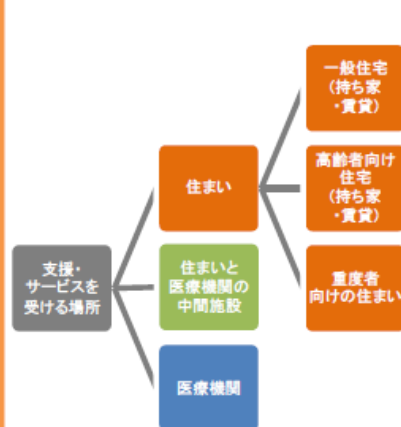
地域における「包括的な生活支援の拠点」の必要性

- 心身の衰えや病気の治療、近隣の付き合いの減少による孤立感、機能や意欲の低下とともにみられる閉じこもりなどの不安やリスクの解消には、本人や家族が気軽に相談したり立ち寄りたりする「**包括的な生活支援の拠点**」の設置が重要。あらゆる地域住民が支える側・支えられる側の区別なく、自由に訪れ交流できる場所としていく。
- このような拠点は、相談支援、地域住民の交流、不安感の解消、支援・サービスの周知、早期対応、生きがい創出、閉じこもり予防など、運営方法によって多様な効果が期待できる。

住まいと住まい方



「支援・サービス」を受ける場所と「住まい」の種類



- 「住まい」としては、「**一般住宅**」のほか、家屋・家族・サービス基盤等の理由で一般住宅での生活が難しい場合に住み替える「**高齢者向け住宅**」、重度で在宅生活が難しい場合に集中的なケアを提供する「**重度者向けの住まい**」がある。すべての「住まい」は、「住み慣れた地域」での生活を保障。
- 「住まい」での生活を基本としつつ、急性期には「**医療機関**」、軽度の症状変化や急性期病院からの退院時には「**住まいと医療機関の中間施設**」を、必要に応じて短期間利用。

医療・介護・予防の一体的な提供



医療・介護の連携が特に求められる取組・場面

- 介護職は、「**医療的マインド**」を持って、具体的な生活場面のアセスメントの内容を医療側に伝達。医療側は、「**生活を支える視点**」を持って、介護側から提供された生活情報をもとに病態を把握、臨床経過の予測を介護側に伝え、必要となる介護やリハビリテーション等の介入を見通す。
- このような連携が求められる取組や場面として、「**介護予防**」「**重度化予防**」「**急性疾患への対応**」「**入院・退院支援**」「**看取り**」が挙げられる。

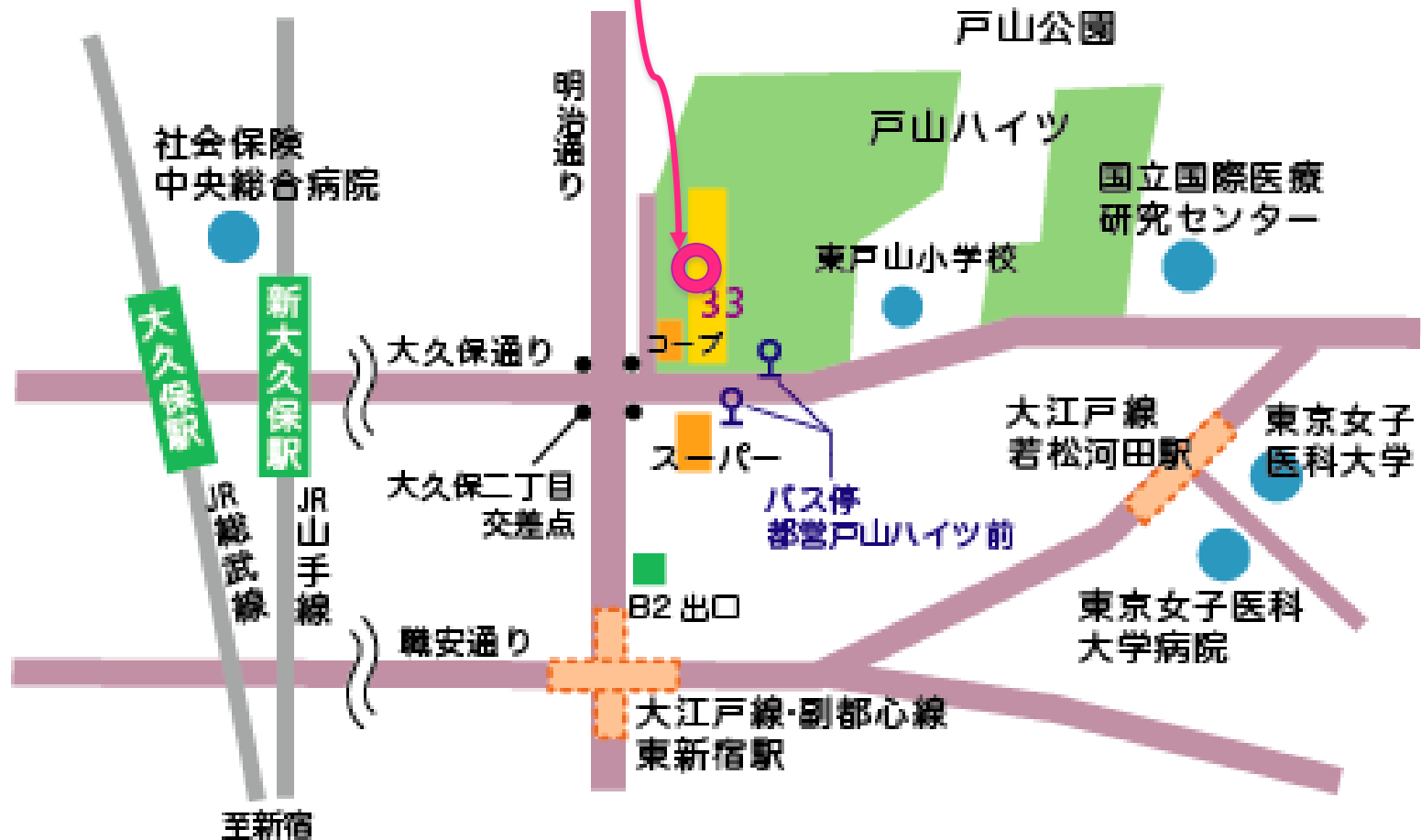
統合的なケアの提供に必要な仕組み

- 統合的なケアの提供に関わる多様な専門職の機能を統合するためには、**顔の見える関係づくり**に始まり、**課題認識の共有**や**目標設定**、**ツール作成**等を通じて、統合的なケアの提供に必要な仕組みを構築する必要がある。
- ツールとしては、アセスメントやプラン作成の標準的な様式の作成、連携の場面に必要な手順や役割分担、連絡調整上の配慮等に関するルール、地域連携クリティカルパスが考えられる。

「暮らしの保健室」開設のきっかけ

- 訪問看護の実践の中で、もっと気軽に相談が出来る場所が地域の中にあつたらと言う思いが強くなった
- 団地の空き店舗を安く貸してくれる人が現れた
- 前々からマギーセンターのような相談支援の場所を地域の中に造りたいという夢の実現
- 在宅医療推進をめざし、そのため殊に連携推進の目的で、厚生労働省が平成23年度から始めた在宅医療連携拠点のモデルに選ばれた

暮らしの保健室



暮らしの保健室2011年7月1日オープン



メインルームにはテーブルを配置予定

マギーズ エジンバラの内部



..... maggie's tokyo project

HP: <http://maggiestokyo.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/maggiestokyo>

Mail: info@maggiestokyo.org

Twitter: [@maggiestokyo](https://twitter.com/maggiestokyo)

2015. 4 NPO法人認可

新豊洲に建設予定地内定し実現化に向けて
活動中

暮らしの保健室内部



時には子どもたちも・・・

団地で暮らし続けるためには？



団地で暮らし続けるためには？
車椅子を両側で支えるのが困難な階段

1階の住宅でも、すでに階段5段あり外出時に困難



団地で暮らし続けるためには？
ベランダの段差・踏み外しての転倒

ベランダへのアプローチが
急な傾斜の段差・幅が狭い



70～75未満の間に・・・

- 住居について考える時期の限界点
- 引越しも含めてアドバイザーがいるのでは？
- 住み替えの手続きが煩雑で、かつ、何度も足を運ばなくてはならない
- 障害状態や要介護になってからでは、かなり難しい
- 団地内に健康も含め生活全般の相談機関を！
(地域包括支援センターの役割との連動も)

相談事例で増えてきているもの

- 障害児が**障害者になり高齢化**し、さらに高齢化した家族の努力も限界
- 突然に放り出される自己決定支援が必要な生きづらさを抱える人々（セイフティネットの網からこぼれる）

誰が家族単位で捉えてサポートするのか？

- **認知症初期の高齢者単身**地域で支える仕組みの強化には、支え手を育てないと・・・インフォーマルサポートの育成・行政の支援・当事者の参加
- がん患者の相談の増加、病院の中では表現できない悩みの受け皿の必要性⇒

マギーズセンター日本第1号を東京に

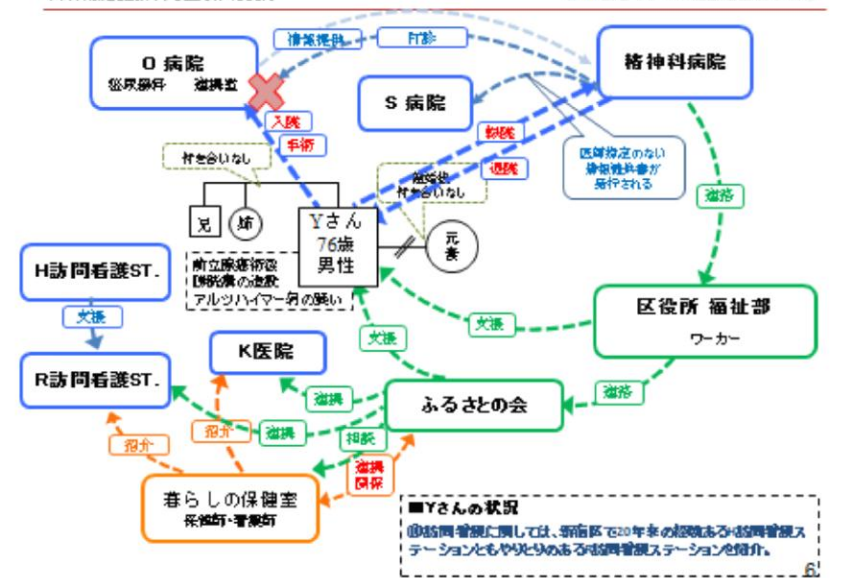
困難を抱えた人を地縁の中で看取る ～血縁を超えた新たな地縁の結び方

■医療と介護の連携のための
「暮らしの保健室 ケース勉強会」より
月1回開催



本資料は勉強会終了後回収いたします

第28回暮らしの保健室勉強会事例①



予防に力点を置く医療と介護の連携

- 高齢者ことに後期高齢者の中で80歳を超える人々の生活ニーズは、医療的なニーズも合わせて、予測を持って見通すことが必要
(新宿区では85歳以上になると6割が要介護)
- 医療・介護ニーズを重度化させないための予防は「生活を支える視点をもった」医療者の早めの介入が必要 ⇒ システムの工夫
- 東京都のがん医療は他県からのニーズにも対応 ⇒ 予防から看取りまでの継続性が？

都心での働き手の確保

- 福祉先進都市東京を実現させるために、福祉人材の確保は重要課題
- 働き手は他県から通勤
- 都心に住みながら通える職場環境は出来ないか？ 保育の充実は必須！
- 都営住宅の空き家の調査及び活用の工夫で、若い福祉人材の確保にも好影響を期待
- 都心部の空き家の活用で、小規模多機能施設などの推進を！

訪問看護

ご自宅での安定した療養生活を支援するために、訪問看護ステーションの活動は、平成4年1月
からスタートしています。新宿区内には、現在23カ所の訪問看護ステーションがあり、かなりついで
とともに（医師の指示が必要）訪問看護師が訪問看護を行っています。介護保険だけでなく、
医療保険でも訪問看護が利用できます。お近くのステーションへ是非お気軽にご相談ください。

<新宿区内訪問看護ステーション一覧>



坂町
ミモザの
家

公立
★新宿区訪問看護ステーション
TEL. 5312-9925
FAX. 3228-2237

- | | |
|---|--|
| 1 白十字訪問看護ステーション
TEL. 3268-1815
FAX. 3288-1028 | 16 HFC法人 坂町ミモザの家
訪問看護ステーション
TEL. 3208-8668
FAX. 3209-2033 |
| 2 神楽坂訪問看護ステーション
TEL. 5225-4799
FAX. 5261-6600 | 17 訪問看護ステーション さんざん
TEL. 6638-6880
FAX. 3278-4298 |
| 3 早稲田訪問看護ステーション
TEL. 5292-6670
FAX. 5292-5880 | 18 訪問看護ステーション ベビーノ
TEL. 6279-3825
FAX. 5278-3128 |
| 4 戸山訪問看護ステーション
TEL. 5272-4118
FAX. 5272-4118 | 19 テラスステーション東京 新宿事業所
TEL. 5363-4001
FAX. 5363-4332 |
| 5 西新宿訪問看護ステーションつばさ
TEL. 5365-1755
FAX. 5365-1768 | 20 サテライト西新宿
TEL. 042-794-2255
FAX. 429-796-2258 |
| 6 コムネ訪問看護ステーション
TEL. 5368-6078
FAX. 5368-6078 | 21 ハビネスケア
TEL. 5332-6639
FAX. 5332-6638 |
| 7 聖母訪問看護ステーション
TEL. 3951-3822
FAX. 3951-3939 | 22 訪問看護ステーション リカバリー
TEL. 5990-5882
FAX. 3390-5888 |
| 8 日生訪問看護ステーション
TEL. 5380-1814
FAX. 5300-1815 | 23 訪問看護ステーション みらい
TEL. 3200-0205
FAX. 5205-5224 |
| 9 訪問看護ステーション ぐるまど
TEL. 5389-5376
FAX. 5389-0234 | 24 ガイア/ハビレス訪問看護ステーション サテライト
TEL. 0120-507-369
FAX. 3356-3308 |
| 10 訪問看護ステーション サテライト
TEL. 5988-4577
FAX. 5988-4588 | 25 訪問看護ステーション 結わい
TEL. 6304-0470
FAX. 5804-0471 |
| 11 訪問看護ステーション サテライト
TEL. 5988-4577
FAX. 5988-4588 | 26 よつや訪問看護リハビリステーション
TEL. 6457-4886
FAX. 6457-3067 |
| 12 ショッピング百人町
TEL. 3389-8232
FAX. 3389-3722 | 27 複合型サービス わいは
TEL. 3389-8232
FAX. 3389-3722 |

<訪問看護の内容>

病状の観察
医師の指示による診療の
補助業務(点滴など)

介護度にかかわらず病状観察や療養生活に不安のある方を
専門家の目で見守り、自立支援を行います。

清拭・洗髪・
入浴の介助等

蓄積の
(ターミナル)ケア

ご家族等への
介護支援・相談

食事(栄養)
指導・相談

リハビリテーション

床ずれの予防と手当て
排泄に関する相談や介助

看護小規模多機能型居宅介護

病院だけでもない、施設だけでもない。
「看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス)」は
ご自宅での療養生活を、看護と介護の両面からサポー

今までの療養生活には、病院へ入院するか、介護施設へ入所するか、もしくは寂かな
在宅で頑張るか、という選択しかありませんでした。

「看護小規模多機能型居宅介護」は、慣れ親しんだご自宅での日々の療養生活を大切に
にできた、医療と介護の専門家が地域で見守る新しいシステムです。24時間365日受け



訪問看護・介護サービスをいただける

坂町ミザの家



泊まってよし



介護者がいるので夜も安心

通ってよし

みんなですごす時間



おもしろいおもしろいすごす時間



小学生や母子づれが
気軽にたちよる



わが家どよし

訪問看護・介護サービスをうけられる



10年以上の歳月をかけて、訪問看護と、訪問介護が関わらせて頂いたご家庭。仕事を辞めずに、お母さん、おばさんを最期までみとられたご家族を支えたその家を、看護小規模多機能型の施設へと改築(実際は新築)した経過を振り返ってみる。

現行制度の狭間に落ちる様々な規制などをどうしたら良いのか？

住み続けて良かったと思える東京に

- 予防に力点を置きつつ、生活している場所での看取りまで担える都市。
- 在宅医療の充実で、地域差はあるが逆にaging in placeを実現出来始めたところはある。
- 住んでいてよかった東京、語り継げる看とりの物語。大病院での死に方とは違った人情味あふれる看取り方を、福祉先進都市として実現することはもうすぐ来る多死の時代の先進事例となる。
(一人暮らしでも支えられる地域に)

元気な高齢者の生きがいづくり につながる 地域ボランティアの育成と活用




夏休み手作り教室

暑い毎日が続いています。夏休みも折り返し点を迎え、そろそろお子様たちの夏休みの課題が気になるころですね！

夏休みのひと時、地域の方々と交わりながら、昔懐かしい折り紙や、簡単なお手玉づくりで楽しいひと時を過ごしませんか？

作ってお持ち帰りました

厄除けお手玉



8月21日

